

## [012]九州大学大学史料室ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/2202986>

---

出版情報：九州大学大学史料室ニュース. 12, pp.1-, 1998-09-30. 九州大学大学史料室  
バージョン：  
権利関係：

九州大学

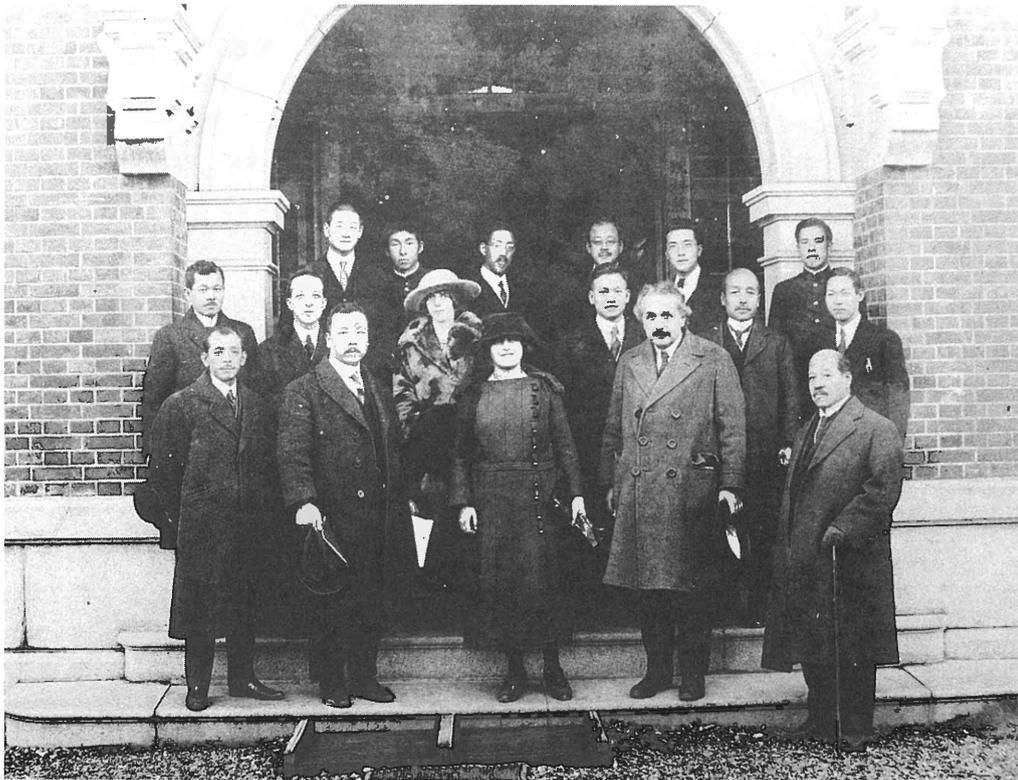
大学史料室ニュース

第12号

1998. 9. 30

目次

九州大学英文科（第一期）の追懐……………	2
史料紹介（8）……………	4
受贈図書一覧……………	6
大学史料室日誌抄録……………	7



アインシュタインの来学（1922年12月25日。於工学部理科教室前）

1922年（大正11）12月25日、前年にノーベル物理学賞を受賞したベルリン大学教授アインシュタインが九州大学を訪れた。彼は世界遊歴の途中、日本に立ち寄ったもので、前日博多大博劇場で開かれた講演会には、九州山口一円から多数の聴衆が集まった。九大には日本におけるアインシュタインの紹介者として著名な桑木或雄工学部教授（写真前列左から2番目）がおり、その縁で来学したものである。本学では、各種標本等を見学し真野文二総長（写真前列右端）ら主催による午餐会に出席した。大正期の国際交流に関する貴重な写真史料である。

## 九州大学英文科（第一期）の追懐

西原忠毅

九州大学は始めから、医学部区域は別として、文理科の大部分が鹿児島本線にほど近い箱崎地区に纏っていた。今はない市内電車の「九大前」終点で下りて、少し東に歩けば南面して正門があり、それを入れれば左手直ちに現在骨董品みたいに見える建物、その4階建ての重厚な鉄筋コンクリート外形の一棟が、法・文・経を含む法文学部のもやいの建物であった。そして戦後数年経ってから、箱崎浜の埋立地に幾棟にも分かれて、教育学部を加えた文科系4学部が立ち並んだ。これから何年か先に、箱崎地区全体と六本松地区が市の西郊の丘陵地帯に移転するという。そうなれば、外形的にも九州大学は3度変ることになる。そしてこの外形的变化とほぼ平行して、内部的にも大きな体制の変更が起きたし、またこれから起きつつある。

そもそも九州大学の英文科が法文学部の一学科として発足したのは大正14年(1925)のことで、その歴史は70数年になるが、初代の教授豊田実・助教授中山竹二郎のコンビは終戦まで変らなかった。だからこの時代を英文科の第一期と見ることには異論はなかろう。私はこの第一期の終りに近い昭和8年(1933)に九州大学に入学し、3年後に卒業した。それに半年間の大学院生。そして新制九州大学の発足時から昭和51年(1976)4月まで教養部の英語教官の一員であった。そんなことで、上記第一期の卒業生の生き残りの一人として、その当時の追懐をここに少しばかり記録して置くことは、無意味ではあるまいと思う。

昔と今とではひどく変わったもので、学生の服装にしても、今日の学生は予備校生と見分けがつかない。規制なしである。昔日の角帽をきちんと被って通学していた頃の学生像が、滑稽にさえ思われる。あのころは、文科だと二次募集で検定試験と入学試験の二重の関門を潜って、旧制高校以外の(専門学校)卒業生が大勢入学した。内地は4帝大の時代で、高校の卒業生は東大と京大に押寄せるものだから、九大と東北大の文科系は定員を外部から補充する必要があった。私の所属する英文では、10名あまりの同級生中、高校出は私一人、7、8歳の年上が何人かおり、最年長は40代半ば、東大法学部出の炭坑主だった。この人だけが、いつも背広姿で、よく教師と間違えられた。とにか

く学生は全国から集まって来ていたことが、今の九州大学の学生が主として地元出身者であるのと大いに違う。

そしてこれらの学生は、卒業後はまた全国に散らばった。私のクラスでは炭坑主は別として、同級生の一人は詩人、他はすべて英語の教師になった。そしてそれらの殆どが後にどこかの大学教授になった。卒業生名簿を見れば、その頃の英文は大学教授養成所のようなものである。戦後の教育事情の特殊性がそうさせたのであろう。

因みに言うが、私が大学在学中は支那事変直前の雲行きに怪しい時代であって、天皇機関説排撃や二・二六事件なる国内反乱も起き、軍部や右翼の圧迫が言論界や大学人にも及んできた。学生が「中央公論」や「改造」を所持していても警察に睨まれるような始末だった。他方就職難が待ち受けていて、卒業と同時に中等学校の英語の教師にでもなれたら運が良い方、外地の学校に赴任する人もいた。そんなことで、英文科の学生数は年々落ち目にあった。名簿によれば、昭和3年(1928)卒の第1回は10名だが、その後7回の平均卒業生数は丁度20名になる。そして9回すなわち私のクラスが13名、それから漸減して大戦が始まった昭和16年(1941)は3名、ついで終戦後の22年までは毎回五指を出ない。しかしそれらの卒業生の大半が大学教授になったというのも、首をかしげさせる。

先に同級生に実業家が出たと言ったが、この人は貧乏書生のわれわれを折りにふれて歓待してくれた。卒論試問の後の謝恩会と称するものでは、設営から経費まで一切負担してくれた。つまり教授・助教授とわれわれ学生は、前相談もなく、東公園の内か外かよく覚えないうえ、一流の料亭に連行された。しかも人数に見合った数のキレイドコロが待っていたのである。こんな話は余計なことかも知れないが、当時の英文の学生気質を物語る挿話として紹介しておきたい。美女揃いで、向こうさまが極めて積極的なのに、三味は鳴っても唄一つ出せない始末。石部金吉なのである。実を言えば、一人二人は堅物でもなかったと思うのだが、この雰囲気では手が出せなかった。今にして惜しいことをしたと思う。

●●●  
牧師の資格までお持ちの豊田實教授は、一見柔

和に見えるが謹厳な方であって、ご自分の名前は固有名詞だから略字ではいけないと、この通りに書くことを要求された。無遠慮な一人が「先生は煙草だけでなくお酒も召し上らないが、どういう御趣意でございますか？」と尋ねた。「乱れるからだよ。」というのがお答えであった。われわれのクラスには煙草常習者も二・三人しかいなかったようである。清教徒的な雰囲気があった。そして専門学校の英文科や外国語学校の卒業生が大半で、専門に対する到達度は、一般教育しか受けていない高校出の私とはいささか違っていたようである。シェイクスピアやブレイクや聖書の英語についての専門家をもって自ら任ずる者もいた。

そのころの先生は文学専門だからといってそれだけを担当する訳にはいかなかったようである。自分の得意なところを主として講義されたであろうが、私が後になって特に益したと思ったのは、豊田教授のジョウズンの音声学テキストによる講義・実習、中山助教授のチョーサーの講読であった。これらは手引きをしてもらわなくては一人ではできそうにないものだった。学部課程では学生の将来のことを考え、こういう基礎的な訓練は欠かせないと、今でも思っている。

戦後、教師の人格的な感化ということが強調されたが、学生時代の下賤な私には先生はお偉くて雲の上の人としか思えなかったし、始め2年間ぐらいは病床から通学したようなこともあってか、個人的な交わりは全然なかった。卒論の試問の後で、クラスの紅一点、後の萩野目大阪女子大教授に、私の名を豊田先生が尋ねられたと聞いて、大変恐縮した。しかし卒業後は両先生に人一倍ご配慮を頂き、ご愛顧を受けることにあいなった。

今回豊田先生の手書きのノート類の整理をお手伝いして思ったことだが、東京大学ご在学中からの大学ノート約100冊をざっと拝見して思ったのは、先生は大変几帳面な方というのが一つ。ロレンス教授の講義が克明に記録されているところを見ると、先生は英語が日本語同然に聞き取れたということが分かる。実際教室や教室外で聞いた先生の英語はじつに見事なものであった。学者は得てして外国語の実用面はいかがわしいが、その点先生は例外であった。フランス語で書かれた日記も幾冊もあった。ノートの中に東大時代の同級生であった芥川龍之介の痕跡はないかと思ったが、ノートの外にあったらしい手紙の類は散逸し、ノート内には何もなさそうであった。



法文学部本館(昭和11年)

先生はご退官後、母校青山学院大学の学長、次いで院長にもなられた。日本英文学会会長当時、研究発表は世界に通じるように英語ですべきだと主張され、反発を買ったことがあるが、今日ではそれは当たり前になった。宮中に参上して、今の皇太后に英文学のご進講をされたことは、人のあまり知らない事実であろう。先生はご郷里福岡県吉井町の名誉町民になっておられ、旧居跡の豊田小児科医院の庭に黒御影石の碑が建っている。

中山先生は豊田先生の後を継がれ、文学部長や大学院の科長も務められたが、反骨精神のお強い方で、位階勲等一切を辞退された。紀要に発表になっている英国の演劇史に関する論文を単行本の形に纏められてはと勧められながら、あまりに慎重であり過ぎたのは惜しまれる。塚越太郎君と将棋をさした後で、英詩の暗唱競べをしたという話は塚越君から聞いたが、勝ち負けのほどは知らない。私信として戴いたお便りを見るかぎり、先生は凝り性の名文家でもあった。ご趣味であった骨董・魚釣り・大工仕事のこと、ロンドンでの我々の再会、乳山羊を下さったこと、筑後川大洪水の際の忝いお見舞いなど、話は尽きないが、あまりに私事に亘るので、割愛する。

終わりに一言、豊田先生の日本英学史の資料は「筑紫文庫」として九州大学図書館に、また前に触れた自筆のノート類は同大学史料室に保管されている。また中山先生の蔵書のうち、チョーサーやシェイクスピア関係の貴重な本は、後藤武士教授を経て、その遺された蔵書とともに、筑紫女学院大学の図書館に所蔵されていることを念のため付記しておく。

(九州大学名誉教授)

## 九州帝国大学農学部要覧

折田悦郎

1924年（大正13）3月、九州帝国大学農学部は農学科のみ4名という少人数ではあったが、最初の卒業生を出した。今回紹介する『九州帝国大学農学部要覧』（下写真）は、九州帝国大学が農学部の第1回生卒業を記念して刊行したものである。刊行年月日は同年の3月1日。この日は九州帝国大学の創立記念日でもあった。当時、全学的な卒業式は、1919年（大正8）4月施行の大学令等の改正により、1918年（大正7）7月を最後に廃止されていたが、九州帝国大学農学部の設立に協力を得た関係各所への感謝の意も込めて、本学創立記念日（式典）にあわせた刊行がなされたのである。

1924年（大正13）3月1日の九大創立記念日当日の様子については、翌日の『福岡日日新聞』に次のような記事が掲載されている。

「九州帝大創立第十三周年記念式は、一日午前十時より同大学医工農各学部教授職員学生一同、本部図書館に参集の上、式を挙行した。真野総長の勅語捧読の後、（中略）農学部創立に際し格別尽力した関係者を招待して農学部の開学記念宴を挙げ、（中略）近日第一回の卒業生を出すに至っ

たが、その創立に際して福岡県の多大なる同情及援助によって順調に進捗せしめたことに就いて感謝の念を表し、（中略）次に福岡県知事代理として原田内務部長の挨拶ありて一同乾杯し、更に久世福岡市長、元代議士藤金作氏、粕屋郡国浜重多氏及創立当時の福岡県会議員峰要一郎氏等、一場の祝辞を述べて宴を撤し、（中略）来賓の重なる者は前記の外小川東北大学総長、星野北海道大学総長代理、山田京都高等蚕業学校長、山田鳥取高等農林学校長、堀内長崎県知事、秋吉福岡生駒佐賀両高等学校長、吉村鹿児島高等農林学校長、寺島福岡地方裁判所長初め農学部創立当時の県会議員其の他の関係者百五十余名であった。」（『福岡日日新聞』大正13年3月2日。一部、下線及び句読点を補う、以下同。）

農学部創立の経過やその意義を知ることが出来ると同時に、来賓の顔ぶれ等から見て、当日が農学部の開学記念日であったことが理解される。

そもそも九州帝国大学農学部は、第2代総長真野文二の努力と福岡県内の官民による設置運動により設立がなされたもので、特に福岡県による財政的な援助は大きな役割を果たした。1917年（大正6）、当時の谷口留五郎福岡県知事が上京して岡田良平文相と会談し、農科設置の件を要望するとともに、福岡県議会は同年11月、1918年度～1923年度までの6年間に農学部の設立費として134万8,000円を国庫に寄付することを決議し、さらに翌18年の議会では2,000円が増加されて、合計135万円の寄付が行われることになった。この結果、1918年3月の第40回帝国議会で正式に九州帝国大学農学部の設置が認められたのである。

このようにして創設された農学部は、東京帝国大学、北海道帝国大学に次ぐわが国3番目の農学部であった。官制上の設置は1919年（大正8）2月の勅令第13号をもってなされたが、実際の授業は2年後の1921年4月から始められた。創設準備は、創立委員の本田幸介（朝鮮総督府勸業模範場技師）を中心に進められ、敷地が粕屋郡箱崎町の工学部の東隣に、また附属農場も大学にほど近い粕屋郡仲原村に設定された。1922年には、早良郡（姪浜町・同壱岐村）と粕屋郡（粕屋郡篠栗村・同久原村）に附属演習林も設定されている。九州



『九州帝国大学農学部要覧』（大正13年3月）

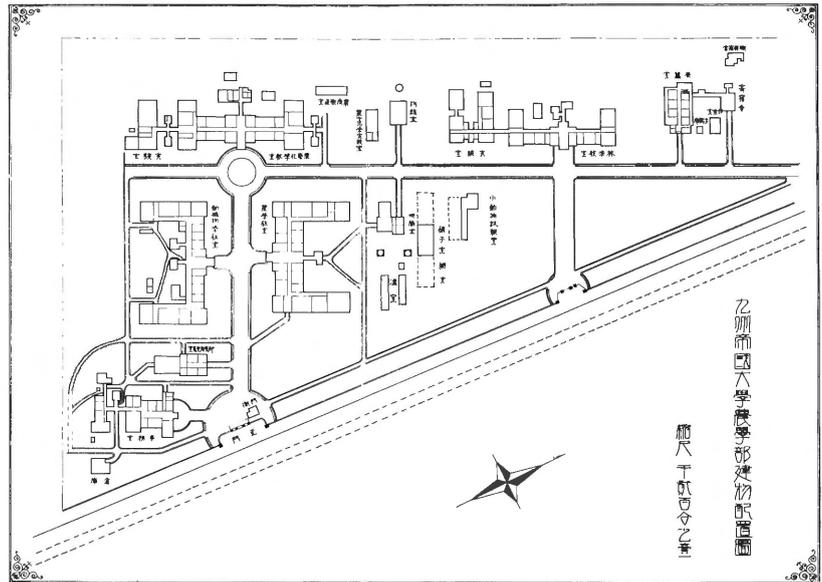
大学の演習林は農学部創設以前に既に台湾、朝鮮、樺太に置かれていたが、遠隔地のため県内にも演習林を設置することにしたのである。1921年4月からは学生の入学が始まり、本科3名、選科7名の入学者があった。

『九州帝国大学農学部要覧』は、大きさが菊判(218mm×152mm)、縦1段組み52頁と巻末に40枚の写真、「農学部建物配置図」(右図)「附属農場建物配置図」の2枚の配置図が付けられている。印刷所は大阪市外北海老江の精版印刷株式会社であった。巻末の写真集は農学部の写真としては最も古いものの1

つである。1920年(大正9)4月、後の昭和天皇来学に際して作製された『九州帝国大学写真帖』に「農学部農場」の写真2枚が所収されているが、まとまったものは本『要覧』のものが最初であった。

本文部分の目次を示すと、「沿革略/敷地及建物/農学部規程/職員/講座及設備/農学本館及分館/農芸化学本館/林学本館及分館/生物学本館/附属農場/附属演習林/紀要/学生及生徒ニ関スル諸表」という構成である。これによると、当時の農学部は農学第一講座(作物学通論)以下25の講座からなり、教職員(含兼任)は教授14、助教授21(うち在外研究中9)、講師7、助手31、書記5という規模であった。

ところで、1924年(大正13)2月16日の『福岡日日新聞』の記事によれば、『九州帝国大学農学部要覧』の刊行には、もう1つ別の目的があったことが判る。「九大農学部は(中略)大正十二年度で第一回農学科の卒業生を出すと共に教室も目下略落成した(中略)現在農学部の講座は農学科(中略)を始め沢山の講座があり、其内容も昔日の所謂農学の比ではないのに、之を理解する者が少ないから、先づ此等諸学科の内容を説明して一般に之を知悉せしめる必要があると云ふので、各学科の担任教授が各其科の内容を概説することとなり、既に其説明書も出来上って目下印刷中であるが、印刷済の上は差当り之を全国各高等学校及び高等農林学校其他の専門学校生徒に配布する筈である」という記事に見える「説明書」が、『九州帝国大学農学部要覧』である可能性は高い。また当日の記事には、「大正十三年度から大英断を



九州帝国大学農学部建物配置図

以て大に門戸を解放する筈」とか「専門学校卒業生のためには従来数学、外国語其他多くの学科に就て試験して居たのを、本年からは必須科として外国語は課するが、其他は化学と植物学とを選択科目として其一を受験すればよい事に改め」という記事が見え、本『要覧』と農学部の「開放」策との関連もうかがえる。

九大農学部は1922年(大正11)度の入学生より、高等学校卒業生のほかに実業専門学校・専門学校等の卒業生、いわゆる傍系入学者を認めていた。九大における傍系入学者の認可は、1919年(大正8)9月の「工学部規程」で最初に規定されたが、本格的な入学が始まるのは、この農学部の創立からである。帝国大学に入学するには高等学校卒業が原則とされた時代に、高等学校以外の卒業生にも受験資格を与えたことは注目すべき対応であり、この後農学部には高等農林学校等からの入学者が続くことになる。

本『要覧』の「講座及設備」の説明文の一部に、「農学ハ……」で始まる次の文章がある。

農学ハ一種ノ応用科学ナリト雖モ授業ノ方針余リニ応用ニ偏スルトキハ大学トシテ存立ノ意義ヲ喪フヘク又若余リニ理論ニ失センカ農界教導ノ本義ヲ没却スルニ至ラン故ニ本学部ハ克ク其中庸ヲ保チ理論ト實際ト併セ咀嚼熟達セシメ進ンテ研究ニ従事セントスルモノニモ亦出テテ、実社会ニ活躍セントスルモノニモ共ニ遺憾ナカラシメンコトヲ期ス

草創期における農学部の意識と研究・教育の方針をよく表している記事である。

受贈図書一覧 (1998年1月～6月)

しのぶ草		西原忠毅	1997.11
向坂ゆき	1989.11	廣畑富雄教授退官記念業績集	
卒業生送別会目録		九州大学医学部公衆衛生学講座	1995. 3
九州大学学友会	1960. 2	泣いて堪るか	
九州大学学生案内 昭和二十四年		煌 三郎	1998. 6
九州大学学生部	1959. 4	Aspect as an English Grammatical Category	
わが青春 旧制高校		宮原文夫	1996. 4
ノーベル書房	1977.10	このままでよいか大学英語教育 中・韓・日3か	
George Eliot: THE MILL ON THE FLOSS (フロス河の水車小屋)		国の大学生の英語学力と英語学習実態	
西原忠毅訳	1955.10	宮原文夫	1997. 4
現代英語の慣用構文 (SYNTACTICAL KNOTS IN MODERN ENGLISH)		The 3rd World Congress on Preventive Dentistry	
西原忠毅	1962. 4	森岡俊夫	1991. 6
Aldous Huxley: PROPER STUDIES (人間研究)		歯の健康管理術—プラーク・コントロールから レーザーの応用まで—	
西原忠毅編註	1971. 4	森岡俊夫	1997. 8
A List of Expressive Words with Examples in Modern English M-Z		森岡俊夫教授 退官記念誌	
西原忠毅	1973	森岡俊夫教授 退官記念事業会	1992. 3
A List of Expressive Words with Examples in Modern English A-L		防塁—西嶋克彦元監督追悼号—	
西原忠毅	1975	九州大学硬式野球部追悼号発行発起人会	1976.10
An Experimental Study of Intonation in Human Speech (material)		九州大学硬式野球部創立七十周年記念誌	
西原忠毅・那須 清	1975	九州大学硬式野球部創立七十周年記念事業委員 会	1985. 8
現代英語の語句構成・散文・諺における押韻の研 究		九州大学硬式野球部創立八十周年記念誌	
西原忠毅	1977.12	九州大学硬式野球部創立八十周年記念事業委員 会	1995.11
A List of Expressive Words with Examples in Modern English		九州大学歯学部創立三十周年記念誌	
西原忠毅	1980	九州大学歯学部創立三十周年記念誌編集委員会	1997.12
Glossary of English Expressive Words		九州大学歯学部同窓会広報 第29号	
西原忠毅	1983	九州大学歯学部同窓会	1998. 3
ジェスチャー英語		石炭研究資料目録(矢田俊文教授寄託資料目録・ 小林鉦業所資料目録) 第1輯	
西原忠毅	1984.12	石炭研究資料センター	1998. 3
英語音声の探求		東京大学史史料室ニュース 第19号	
西原忠毅	1987. 2	東京大学史史料室	1997.11
英語音声学の理論と実践		金沢大学50年史編纂ニュース・レター No.6~No.8	
西原忠毅	1989. 3	金沢大学50年史編纂室	1997.12~1998. 4
凡愚哲学		名古屋大学史紀要 第6号	
西原忠毅	1991. 8	名古屋大学史資料室	1998. 3
Katherine Mansfield: The Garden-Party & Other Stories (園遊会 その他)		名古屋大学史資料室ニュース 第4号	
西原忠毅・小倉多加志編註	1993. 2	名古屋大学史資料室	1998. 3
日本語の音感—短歌を素材として かささぎ叢書 第55篇		人文論集 第33巻第1号、第2号	
		神戸商科大学経済研究所・神戸商科大学学術研 究会	1998. 1、1998. 2

学習院大学五十年史ニュース 第3号	立命館百年史編纂室	1998. 3
学習院大学五十年史編纂室	1998. 2	関西大学年史紀要 第10号
校史 Vol. 6	1998. 3	関西大学年史編纂委員会
國學院大學校史資料室	1998. 3	雑誌と新聞で綴る 梅花学園の歴史 展示目録
CREATE 21 No.4	1998. 3	梅花学園資料室
拓殖大学創立百周年記念事業事務局	1998. 2	1998
サティア《あるがまま》 第29号、第30号	1998. 2	桃山学院年史紀要 第17号
井上円了記念学術センター	1998. 1、1998. 4	桃山学院年史委員会
成瀬記念館1997 No.13	1997.12	1998. 2
日本女子大学成瀬記念館	1997.12	愛知県公文書館だより 創刊号
日本女子大学学園史ニュース 創刊号	1998. 1	愛知県公文書館
日本女子大学成瀬記念館	1998. 1	1997.12
武蔵野美術大学年報 1993~1995年度版	1998. 3	広島県立文書館だより 第11号
大学史史料委員会・大学史史料室	1998. 3	広島県立文書館
大学史紀要 紫紺の歷程 第2号	1998. 3	1998. 3
明治大学大学史料委員会	1998. 3	平成7年度 古文書資料目録 1
歴史編纂事務室報告 第十九集	1998. 3	福岡市総合図書館
明治大学総務部歴史編纂事務室	1998. 3	1996. 3
神奈川大学史資料集 第十四集	1998. 3	平成8年度 古文書資料目録 2
大学資料編纂室	1998. 3	福岡市総合図書館
大谷大学図書館蔵 西蔵大蔵経丹殊爾勘同目録 II, 2	1996. 3	1997. 3
大谷大学真宗総合研究所 西蔵文献研究班	1996. 3	Museum Kyushu 第58号~第60号
研究所報 第35号	1997.12	博物館等建設推進九州会議
大谷大学真宗総合研究所	1997.12	1997.11~1998. 5
同志社談叢 第18号	1998. 3	東京電機大学90年史
同志社大学人文科学研究所	1998. 3	東京電機大学90年史編纂委員会
新島研究 第89号	1998. 2	1998. 3
同志社社史資料室第一部門研究	1998. 2	百年誌 龍門
新島襄のキリスト教伝道	1998. 4	鹿児島県立加治木高等学校百年誌編集企画委員会
同志社大学人文科学研究所・同志社社史資料室	1998. 4	1997.11
立命館百年史紀要 第6号	1991. 4~1994. 3	北浦町史 史料編 第3巻
		北浦町
		1998. 3
		福岡県医師会史 第2巻
		福岡県医師会
		1998. 3
		九州旅客鉄道10年史 1987-1996
		九州旅客鉄道
		1997.12
		県史だより 第93号~第96号
		福岡県地域史研究所
		1997. 9~1998. 3
		西日本文化 通巻335号
		西日本文化協会
		1998. 1
		学内広報 平成三年度~平成五年度
		東京大学広報委員会
		1991. 4~1994. 3

#### 大学史料室日誌抄録 (1998年1月~6月)

1.22(木)	第13回九州大学史料収集・保存に関する委員会専門委員会開催。	藤守總名誉教授、前川一之元教授関係史料)。
1.29(木)	第17回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。	2.6(金) 古田鷹治農学部元講師より史料寄贈。
	平成10年度教官定員運用要望書提出。	2.9(月) 退官予定教官へ史料寄贈依頼文書発送。
	国際交流課より史料受領。	2.10(火) 福岡部落史研究会より写真用コンピューター・ファイリングシステム見学・調査のため来室。
1.30(金)	東京大学史史料室員1名、京都大学百年史編集史料室員1名来室。	2.12(木) 長岡技術科学大学教務部長等3名、
2.4(水)	桑野榮一農学部教授より史料寄贈(江	

- 2.20(金) 大学出版の調査のため来室。  
平成10年度九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト(Cタイプ)「低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究」(代表新谷恭明室長)、採択決定。
- 2.27(金) 国際交流課より史料受領。  
2.28(土) 高田勝名誉教授より史料寄贈。  
3.2(月) 廣畑富雄名誉教授より史料寄贈。  
3.3(火) 西山尚宏秘書掛長、史料調査のため来室。  
3.11(水) 広島大学五十年史編集室員等4名、年史編纂の調査のため来室。  
宮原文夫名誉教授より史料寄贈。  
3.18(水) 武藤軍一郎農学部教授より史料寄贈。  
3.20(金) 箴島豊農学部教授より史料寄贈。  
3.26(木) 岐阜大学附属図書館より年史編纂の件につき照会、史料送付。  
3.27(金) 布上董医療技術短期大学部教授より史料寄贈。  
3.30(月) 井澤華子事務補佐員退職(福岡市総合図書館文書資料課古文書資料調査員に転職)。  
3.31(火) 『大学史料叢書』第6輯、『大学史料室ニュース』第11号刊行。  
澤江義郎医療技術短期大学部教授より史料寄贈。  
4.1(水) 馬場恵氏、大学史料室事務補佐員採用面接(4.6より出勤)。  
4.3(金) 国際交流課より史料受領。  
4.14(火) 歯学部同窓会より史料寄贈。  
4.16(木) 第18回大学史料室運営委員会開催。  
第1回P&P研究会開催。  
4.17(金) 折田講師、1998年度前期全学共通教育科目(周辺教養科目)として「九州大学の歴史」開講。
- 4.21(火) 南山大学50年史作成小委員会室より年史写真集刊行の件につき照会。  
4.23(木) 第18回九州大学史料収集・保存に関する委員会開催。  
平成10年度大学史料室振替要求書提出。  
歯学部同窓会より史料寄贈。  
4.29(水) 西原忠毅名誉教授、豊田潤一氏より史料寄贈。  
5.3(日) 折田講師、西原忠毅名誉教授より聞き取り調査。西原名誉教授より史料寄贈。  
5.6(水) 植田信廣法学部教授、菊池高志法学部元教授より史料寄贈。  
5.11(月) 西日本新聞社記者、「九大紛争」関係史料調査のため来室。  
5.14(木) 柴田洋一郎副学長より旧制福岡高等学校寮歌の件につき照会。  
5.18(月) 総務課秘書掛より史料受領。  
5.29(金) 予算経理委員会開催(新谷恭明委員長出席)。  
6.2(火) 西日本新聞社記者、史料調査のため来室。  
酒匂一郎法学部教授、史料調査のため来室。  
6.8(月) 西原忠毅名誉教授より史料寄贈。  
6.10(水) 森祐行工学部教授より史料寄贈。  
真砂尊光氏(九州大学硬式野球部)より史料寄贈。  
6.19(金) 平成10年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)「大学史料の情報資源化と大学アーカイブスのシステム開発に関する基礎的研究」(代表新谷恭明室長)、採択決定。  
6.26(金) 評議会開催(平成10年度大学史料室予算決定)。

九州大学大学史料室ニュース 第12号

発行日 1998年9月30日(年2回刊)

編集発行 九州大学大学史料室  
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
電話・FAX (092) 642-2292

Archives of Kyushu University

印刷 (株)サガブリンティング